

興居島航路については、民間会社が由良と高浜を結ぶ、フェリー14～15便、泊と高浜を結ぶフェリー14便の2系統を運航しています。

中島地域の航路については、民間会社が東線と西線の2系統を運航しています。東線は、睦月島、野忽那島、中島(大浦)と高浜、三津浜を結ぶ、フェリー5便、高速船5便を運航しています。西線は、中島(神浦、西中)、怒和島(上怒和、元怒和)、津和地島、二神島、釣島と高浜、三津浜を結ぶ、フェリー2便、高速船4便を運航しています。

安居島航路については、民間会社が安居島と北条港の間を、1日1便(水曜日、第1土曜日、夏季については2便)の定期船を運航しています。

各航路とも、通院、通学をはじめ日用品の輸送など、島の生活を支える必要不可欠な唯一の航路となっていますが、島しょ部の過疎化の進行に伴い旅客輸送数が減少しています。また、原油価格の高騰など必要経費の増加のほか、使用船舶の老朽化という課題を抱えています。

② 陸上交通

中島本島では民間会社が中島島内を循環する5系統の路線バスを運行していますが、利用客数の減少等により経営は悪化しています。また、中島以外の島には路線バスはありません。

道路については、興居島、中島、怒和島の3島にそれぞれ県道があり、3路線の合計延長は40.6kmとなっています。また、各島の市道327路線の合計延長は95.4kmとなっていますが、島の市道は総じて道幅が狭く車両の通行などに支障を来すことがあります。

(3) 人口

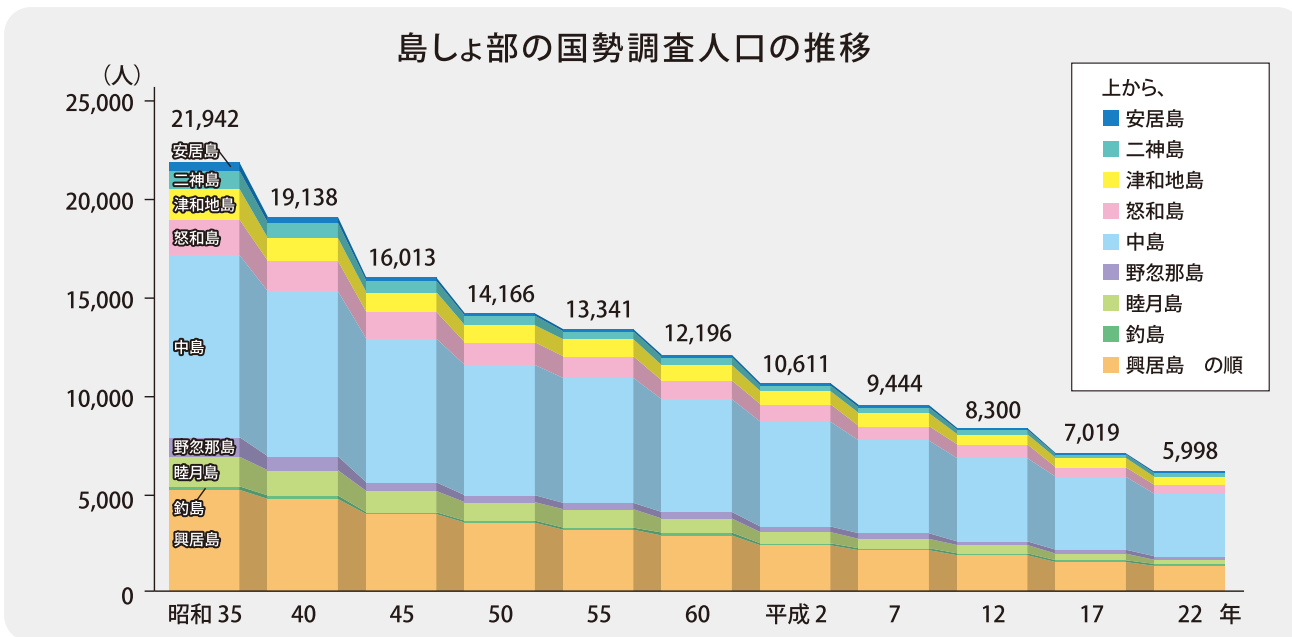
① 人口の現状

島名	世帯数	人口	男	女
興居島	612	1,279	567	712
釣島	30	70	36	34
睦月島	159	276	125	151
野忽那島	89	141	67	74
中島	1,439	3,213	1,457	1,756
怒和島	218	446	204	242
津和地島	184	383	189	194
二神島	98	166	76	90
安居島	11	24	12	12
合計	2,840	5,998	2,733	3,265

(平成22年国勢調査)

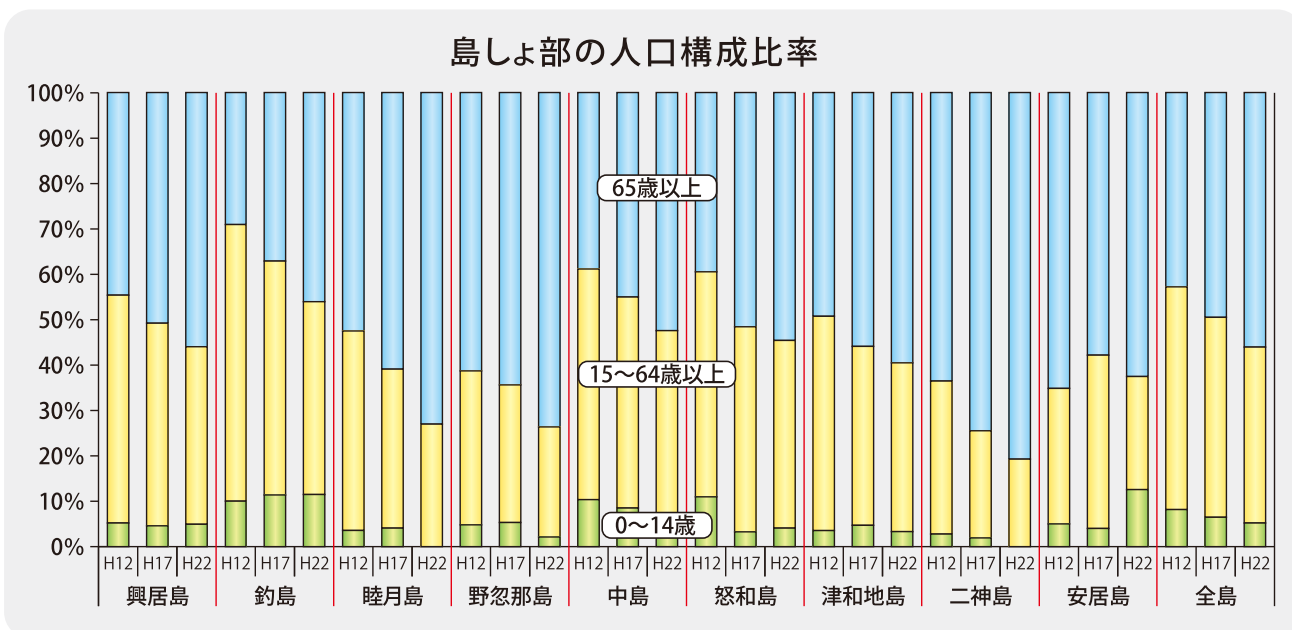
② 人口推移

島しょ部の国勢調査人口は、昭和35年に21,942人と2万人を超えていましたが、平成22年には、5,998人となり、平成17年と比較すると1,021人(14.5%)の減少となっています。



③ 人口構成

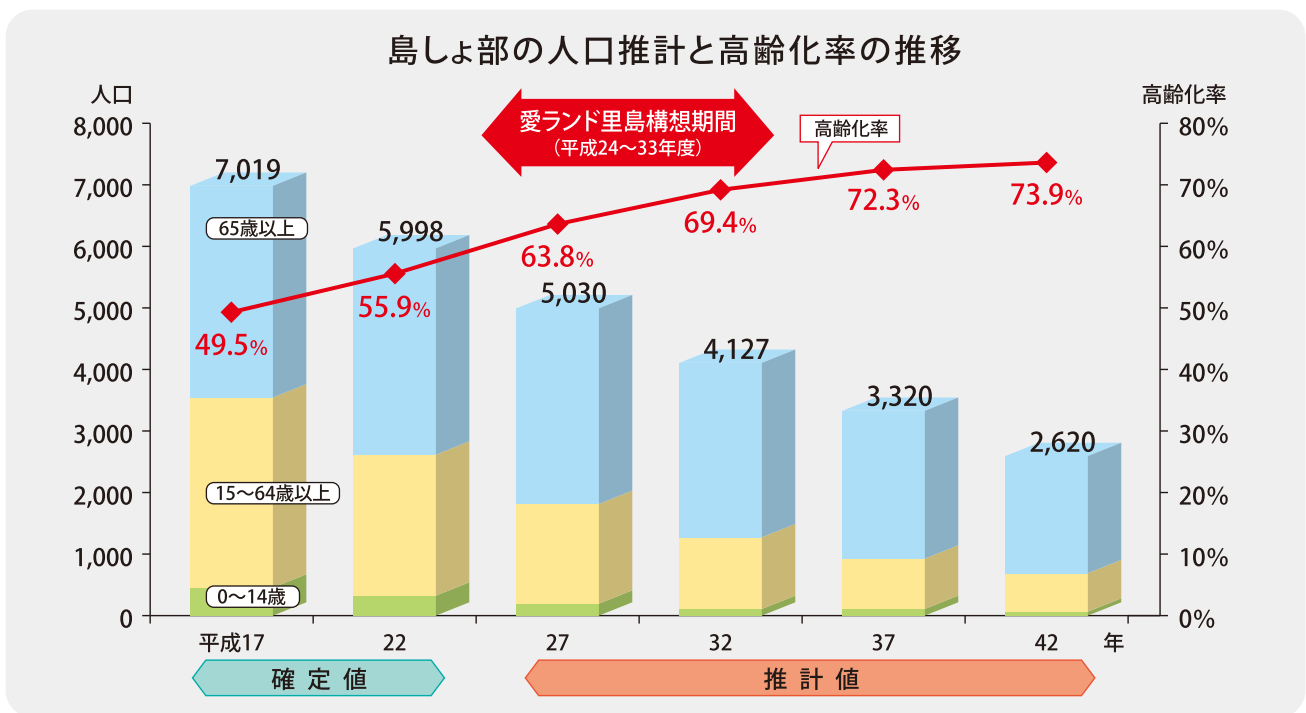
平成22年国勢調査の島しょ部全体の人口構成比率は、14歳以下の年少人口が5.1%、15歳～64歳の生産年齢人口が39.0%、65歳以上の老年人口(高齢化率)は55.9%となっています。また、高齢化率は、年々上昇傾向にあります。



④ 人口推計

コーホート法※を用いて将来人口を推計したところ、平成32年の予想では、島しょ部全体の人口は4,000人台前半まで減少することが予想されています。

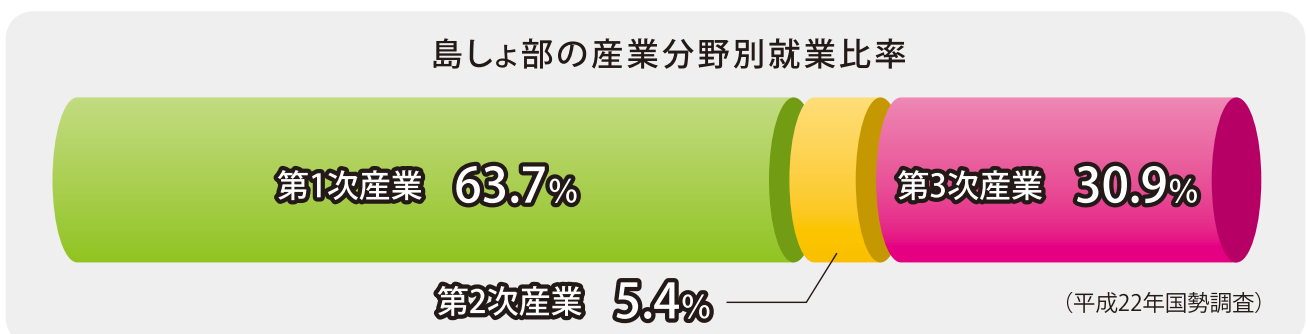
また、平成22年国勢調査の高齢化率は55.9%で、平成32年には70%近くまで上昇することが予想されています。



(4) 産業

① 産業全般

島しょ部の産業分野別の就業者数をみると、第1次産業の就業者は1,920人(63.7%)、第2次産業就業者は163人(5.4%)、第3次産業就業者は931人(30.9%)となっており、第1次産業就業者が圧倒的に多くなっています。



② 主要産業の状況

ア 農業

島しょ部は、温暖な気候と急斜面を活用した果樹栽培が盛んな、県内有数のみかん産地です。近年では、温州みかん、伊予柑価格の低迷、消費者ニーズの多様化、産地間競争の激化などにより、柑橘農家の経営は厳しい状況にあります。

こうした中、農家は消費者ニーズに適合した新品種や有望品種への転換を進め、改植や高品質な柑橘の生産に必要な施設の導入に取り組んでいます。また、「紅まどんな」、「せとか」、「カラマンダリン」の3品種については「まつやま農林水産物ブランド[※]」として認定され、ブランド化が推進されています。

イ 漁業

島しょ部の周辺には好漁場が数多くあり、一本釣りや刺し網漁が盛んに行われています。しかしながら、最近では漁獲量の減少や魚価の低迷により、漁家経営は厳しい状況となっています。

この一方で、怒和島や津和地島では「あわび」の養殖が盛んに行われており、「ぼっちゃん島あわび」については「まつやま農林水産物ブランド」として認定されました。また、所得の向上や漁家経営の安定化のため、ほとんどの島でヒジキ干場が整備され、「瀬戸の島ヒジキ」のブランド化や産地化が推進されています。



島のさかな(たなかあつし氏作)

ウ 商工業

卸小売業、サービス業などの商業は、家族経営が主で、過疎化の進行とともに、経営は厳しい状況となっています。

工業分野では、小規模な土木、建築業者や造船所が存在しています。

エ 観光・レジャー

島の観光は、夏場の海水浴客やキャンプ・釣り客などが中心ですが、レジャーの多様化などにより客数が減少しています。

平成23年4月には「しまはく」の体験メニューを実施した島びとが中心となり、「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」を組織しました。この連絡協議会では、「しまはく」で生まれた魅力ある体験メニューなどを継続して実施するとともに、さらなる交流人口の拡大や地域の活性化に取り組んでいます。

用語解説 まつやま農林水産物ブランドとは……

まつやま農林水産物ブランド化推進協議会により、「松山らしさ」を持つ全国に誇れる高品質な松山産の農林水産物及び加工品に対して認定されたブランド名称。